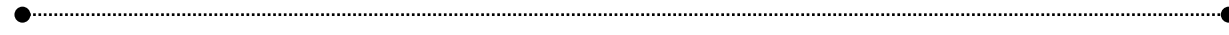


平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	水源の森を育てる地域間交流事業
事業主体 (連絡先)	木曾広域連合 (木曾広域交流事業基幹委員会) (事務局: 木曾広域連合地域振興課 0264-23-1050)
事業区分	(6) ウ 森林づくりと林業の振興 (8) その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,620,275 円 (うち支援金: 1,161,000 円)



事業内容

木曾広域交流事業基幹委員会を構成する団体により、森林整備推進や地域間交流に関わる以下の11事業を実施した。

ア: 木曾川・愛知用水利用地域との交流拡大 (7事業)

高蔵寺ニュータウンウォーク、わいわいカーニバル、馬ヶ城浄水場一般開放、グルッポふじとう木工ワークショップ、春日井まつり、南知多町産業まつり

木曾川と堀川上下流をつなぐ交流会 (下流編)

イ: 上流域への交流活動受け入れの推進 (2事業)

木曾川と堀川上下流をつなぐ交流会 (上流編)

高蔵寺ニュータウン親子体験ツアー

ウ: 首都圏での情報発信 (1事業)

木と住まいの大博覧会



【王滝森林鉄道体験乗車】

※高蔵寺ニュータウン親子体験ツアー

【目標・ねらい】

①木曾川下流域において森林整備に対する理解を深めてもらう。

②首都圏において木工品の販売や、伝統工芸品の展示を通して、PRを行い木材消費の機会を増やし、地域経済の活性化を目指す。

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

① 下流域自治体や関係団体と協力し、ワークショップや木工体験を通じて361名の下流域住民へ森林整備の重要性について啓発し、理解を深めてもらうことができた(上記ア)。

また、下流域住民に木曾地域を訪れてもらい、水源地の自然やそれを活かした文化に触れながら、上下流相互の住民交流を行うことができた(上記イ)。

② 木工製品の製作体験や販売、あるいは木曾地域の伝統工芸品等の展示を通じて、多くの方に木曾産材をPRする事ができた。出店にご協力いただいた事業者側にも売上等で成果が見られた(上記ウ)。

※自己評価【 C 】

【理由】

下流域住民の木曾地域への受け入れは目標の9割程度が達成されたが、下流域イベントへの上流域企業の増加や木曾産材利用事業者の獲得を達成することができなかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

① 下流域の自治体や民間団体との連携を継続しつつ、新たな形で森林整備の必要性和水源地涵養の重要性を周知し、木曾地域の林業振興に協力いただける方を増やしていきたい。特に、上流域への受け入れについては、早期の企画や周知に努めたい。

② 新たな事業者の参加により一定の成果が見られたので、木曾川下流域での事業でもご協力いただけるような体制を整え、経済的効果に繋がるよう発展させていきたい。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある